

3月19日(月)

## 私を生かしてください

聖書朗読 詩篇 119:25~40

あなたのみことばのとおりに私を生かしてください。

あなたの道に私を生かしてください。

詩篇 119:25, 37

人生の中のそれぞれの重要な段階で、自分の生き方がはっきりしない時に、人々は直感的に神のみことばに向かいます。子どものベッドのそばで、結婚式の礼拝堂で、病院のベッドの側で、お墓の傍らで。詩篇119編が語るように、長い人生の間に、私たちは聖書こそが私たちを生かして下さるものであることを、何度も知ります。

詩篇全編の中で一番長い詩、119編は古い昔に記された芸術的な作品です。最初の8節はヘブライ語のアルファベットの最初の文字で始まります。それから、176節まで続きます。この詩は始めと終わりの文字、中間と終わりの文字をとって綴り合せると意味のある語句になる特殊な方法で神様のみことばを賛美しています。詩篇の作者はヘブライ語の全てのアルファベットを使って、神様の律法、神様の尊いみおしえ、神様の知恵と真理のきまりなどを書き表しています。作者は讚美の言葉を次から次へと重ねながら、神様のすべてを書き表しています。

神様のみことばの広さは広大で完全です。私たちが人生の旅をしている間中——歩んでいる時も、寝ている時も、若いときも年をとっても、最初から終わりまで——みことばは私たちが経験する必要があり、本当の人生を守ってくれるものを与えます。

讚美歌 501

祈り 聖なる神様。みことばを通して、御霊の語っていることを聞く耳をお与えください。価値のない罪深いものから私たちを守ってください。そして、永遠の道へと私たちを導いてください。  
道であるイエス様を通して。アーメン。

ケン・ダーハム

カリフォルニア州 アゴラヒルズ

## 今日の方

2018年3月19日~3月25日

翻訳 ゲラ弘美

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

3月20日(火)

## 神があなたの心配をしてくれます

聖書朗読 マルコ 4:35～41

あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

I ペテロ 5:7

人間にとっての基本は、人がだれかを気づかうということです。聖書は、イエス・キリストが他人のことを思いやっていることを繰り返し教えています。ヘブル人への手紙の書き手は簡単にこう記しています。『わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。』(ヘブル 13:5)。私たちはこの不安な時代にあってこのことを心に覚え続けることができるでしょうか？ それは、本当に、信仰したいです。

弟子ペテロは、神様の全能の手の元に私たち自身を謙虚にし、人生における不安をやりすごすためにすべきことを思い出すようにと訴えています。心配と祈りはクリスチャンの経験において、相反する二つの偉大な力です。どうすれば、これを解決できるでしょうか？ 感謝の祈り、嘆願の祈りをもって、私たちの思いをすべて神様にゆだねましょう。

マリヤの弟ラザロが死んだとき、イエス様は涙をながすことによってマリヤに応えました。イエス様は、私たちを悲しみから救われると同時に、私たちと悲しみを共になさいます。イエス様は、私たちを心配してくださいます。

聖歌 406

祈り 親愛なるお父様。いつ何時も、私たちを気づかったださることを感謝します。あなたが決して私たちを離れず、見捨てないということを、信仰のうちににおぼえ、生きることができるように助けてください。ああ、お父様。すばらしい方！  
イエス様の御名において。アーメン。

W・スコット・ウッドリー  
テネシー州 キングストン

3月21日(水)

## 神の癒し

聖書朗読 ネヘミヤ記 5:14～19

私の神。どうか私がこの民のためにしたすべてのことを覚えて、私をいつくしんでください。  
ネヘミヤ記 5:19

神様はネヘミヤを祝福されました。そしてネヘミヤはその祝福を民衆のために使いました。彼はユダの総督に任命されたときから、その地の食料や金銭を要求する権力を持っていました。しかし、彼は城壁の再構築工事に専念することを選び、土地を要求しませんでした。彼は、神様を愛し、民衆のために働いたまれなる政治家です。

ネヘミヤはまた、彼の富と食料を他人と分け合いました(5:17～18)。神様への愛からそうしたのです。彼は指導者としての権力や栄光を求めませんでした。彼は主を求め、主の意思をおこなったのです。彼はユダの偉大な模範でした。彼は神様に「私を覚えていつくしんでください」と願いました。ネヘミヤは人々が彼を賛美することを欲しませんでした。神様のいつくしみだけを求めたのです。

今日私たちは、クリスチャンとしての歩みのなかで、神様のいつくしみを求めましょう。そうすれば私たちは他人に奉仕することができます。神様への愛が私たちを動かすのです。

もし、あなたが私を導かないなら、主よ、  
私の旅路はすべて辛いもの。  
あなたのうちにのみ信頼し、  
私は旅をつづけることができる。

——賀川豊彦

讃美歌 312

祈り 親愛なる神様。あなたが私たちにくださる祝福のすべてを感謝いたします。他人と分け合い、あなたのしもべとなるように助けてください。  
イエス様の御名において。アーメン。

エドワード・マックアダムス  
アーカンソー州 サージー

3月22日 (木)

## 神に渴く

聖書朗読 詩篇 63:1~5

神よ。あなたは私の神。私はあなたを切に求めます。水のない、砂漠の衰え果てた地で、私のたましいは、あなたに渴き、私の身も、あなたを慕って気を失うばかりです。  
詩篇 63:1

あなたは神様に渴いていますか？ 私は、私たちは神様を求めていると思います。しかし、私たちは日々の生活で、ダビデが描写したように渴くことはありません。私は南アメリカに伝道の旅をしたことがあります。そこで水の渴きを経験しました。そこでは、もしも十分な水分をとらなかつたら、熱と湿気の高さによって命取りとなるでしょう。北アメリカ人のなかには、このことを忘れて、医療水分補給によって回復した人たちが見られました。ダビデは、水のない不毛の地で身体が水を求めて渴くように、神様に渴いていると言っています。

水は肉体の命をささえています。神様は精神の命をささえています。日々、摂取することが必要です。私たちは水なしには4、5日しか生きられません。精神的な水がなくても生き残ることはできません。私たちは神様を求めて渴いています。さあ、神様の言葉、神様の愛、神様の命を飲んで、満たされましょう。

*私はイエス様のもとへ来て、その命を与える水流から飲んだ。  
私の渴きはいやされ、魂はよみがえった。  
そして今、私はイエス様のうちに生きている。*

——ホラティウス・ボナー

讃美歌 43

祈り 親愛なるお父様。あなたと共に日々歩み、語らうことの大切さがわかるように助けてください。あなたの言葉で、私たちの精神的な渴きがいやされるように助けてください。

イエス様の御名において。アーメン。

エドワード・L・マックアダムス  
アーカンソー州 サーシー

3月23日 (金)

## 心から満ち足りる

聖書朗読 ピリピ 4:10~13

人の労苦はみな、自分の口のためである。しかし、その食欲は決して満たされない。  
伝道者の書 6:7

私たちは皆、いろいろな物を欲しがります。しかし、賢い著者はこう言っています。「地上のもので私たちを本当に満たせるものはなにもない」(伝道者の書6章)。

どうしてそのとき、パウロは自分が満足したということができたのでしょうか？ その秘密は、パウロがキリストの内にいることにありました。キリストは、私たちにとって、正しくてやさしい友達や父親であり、私たちの願いのすべてを満たしてくれます。

不満によって破滅する人生が、常にみられます。お互いの不満を理由に別れる夫婦、お金や快樂をもっと得ようと励み、決して満ち足りることをしない人々、満足をもたらすと信じることを、はげしく追求し、望み続けて飽くことのない人々。

私たちは、キリストをもっと知り、もっと主のそば近くついていくために祈ります。神様のみことばを聞き、賛美でほめたたえ、神様の善なることについて語ります。友達を信じることを通して、神様のことばを通して、神様の創造を通して、私たちにそれをするようにと呼びかける仕事を通して、神様は私たちの前に、まわりに、いつでもおられます。

キリストは、私たちの人生を動かす原動力であり、私たちの真のゴールであり、それが満足の秘訣なのです。

*ああ、私の心なる主よ、私の視覚となってください。  
あなたの創造したもので、無駄になるものはありません。  
あなたは、私の最良の思想、昼に夜に、寝ても覚めても、  
あなたの存在が私の光。*

讃美歌 448

祈り 親愛なる神様。私がいまず、あなたを第一に置き、そしてあなたの内に満ち足り、その知恵を見ることができるよう助けてください。  
イエス様の御名において。アーメン。

エドワード・L・マックアダムス  
アーカンソー州 サーシー

3月24日(土)

## 悪い日のための福音

聖書朗読 マタイ 27:54~61

私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう。  
ローマ 8:32

パウロは十字架の意味を把握しました。それはゴルゴダを包む恐ろしい暗闇からでした。パウロは、キリストへ非常な苦勞をもって奉仕した人であり、こう書き残しました。「たとえ何であっても、神様が私を愛していないと、私に思わせることはできない！」パウロが燃え上がる情熱をもってキリストの愛に生きはじめたのは、キリストが発する愛の光によって、パウロの目がみえなくなったその直後からでした。

友人たちは、パウロに容易な道をとらせようとしていました。しかし、彼は相手にせず言いました。「キリストの愛が私にそうさせるのです。私には他にしようがないのです」。何度もパウロは落胆し、挫折し、失望し、ひどく恐れました。しかし、それらはつらい経験によって引き起こされた束の間の心的状態にすぎません。ゴルゴダは不変でした。十字架にかかったとき、神様は、その両手でパウロの顔を取って言われました。「このあとに何が起こっても、たとえあなたが何を見ても経験しても、私があなたを愛していることをおぼえていなさい」。

二人の少年が言い争っています。一人が言いました。「僕のパパが、太陽は動かないって言ったよ。地球が動いているんだよ」。別の少年は納得しません。「じゃあ、君は地球が動いているのを感じるかい？ 太陽が沈むのを見たことないの？」。最初の少年は言い負かされずに言いました。「うーん、僕はパパが言ったことを信じるよ」。痛みや孤独や不正義があなたに議論をしかけたとき、イエス様があなたにささやきかけるのを聞きなさい。「私は何が起きているか知っています。私もそれを経験したのです。ただ私があなたを愛していることを覚えていなさい」。

讃美歌 457

祈り お父様。私はゴルゴダを覚えています。  
イエス様の御名において。アーメン。

ジム・マックギガン  
アイルランド ベルファスト

3月25日(日)

## 神様と二人きり

聖書朗読 詩篇 68:3~6

しかし、イエスご自身は、よく荒野に退いて祈っておられた。 ルカ 5:16

朝の5時です。家は静まり返っています。彼女は天井の扇風機がたてる音を聞きながら、静かに座っています。その扇風機のブーンという音はまるで、そばに友達がいるかのようなようでした。真夜中や早朝、一人でずっと長い間いるときは、その扇風機の音だけが彼女の慰めとなることがよくありました。

静寂。それは本当に黄金のように素晴らしいものでしょうか？

多くの孤独があります。年老いた人、配偶者に死に別れた人、いつ起こるかかわからない心臓発作に苦しんでいる人、結婚の破綻に苦しむ人。このような人たちのなかには、人々の愛に完全に囲まれていても、まだ孤独だと感じる時があるようです。

ダビデは人生の孤独な時期、神様が彼のそば近くにいらっしゃるということに頼みにしていました。私達もダビデのように、最も孤独な時期には神様が私たちの最もそば近く働かれるということを知ることによって、慰められ力づけられることができます。孤独の時、人は主のそば近くにいて成長し、何にも邪魔されずに主との関係を持つことができるのです。

聖歌 101

祈り お父様。人生の孤独な時間に、私たちが感謝できるように助けてください。満ち足りて、この時間を喜びを持ってすごせるように、私達を教えてください。あなたとの関係によって私たちの日々の歩みが強められますように。

イエス様の御名において。アーメン。

エレン・ウィギンス  
テキサス州 ホートン